



# カレンダーおよび連絡先のインテグレーションを設定する

• [Configuring Calendar and Contact Integration](#) (1 ページ)

## Configuring Calendar and Contact Integration

### 概要

カレンダーと連絡先のインテグレーションを Unity Exchange または Office 365 サーバーとの接続で設定できます。カレンダーと連絡先のインテグレーションの詳細については、「[カレンダーおよび連絡先のインテグレーション](#)」、ページ 1-11 の項を参照してください。

## Exchange または Office 365 サーバーとのカレンダーおよび連絡先のインテグレーションを設定する

1. システム要件を見直し、Exchange 2019、Exchange 2016、Office 365 のすべての要件が満たされていることを確認します。詳細については、[https://www.cisco.com/c/en/us/td/docs/voice\\_ip\\_comm/connection/14/requirements/b\\_14cucsysreqs.html](https://www.cisco.com/c/en/us/td/docs/voice_ip_comm/connection/14/requirements/b_14cucsysreqs.html) にある『Cisco Unity Connection のシステム要件、リリース 14』の「ミーティングのカレンダー情報にアクセスするための要件」および「Exchange 連絡先情報にアクセスするための要件」を参照してください。
2. Exchange サーバーを設定し、Unity Connection がカレンダーと連絡先のインテグレーションのために統合します。次の項を参照してください。
  - カレンダーと連絡先のインテグレーションに対して Office 365、Exchange 2019、Exchange 2016、Exchange 2013 を設定する
  - カレンダーと連絡先のインテグレーションに対して Unity Connection を設定する

3. カレンダーと連絡先のインテグレーションに対して Unity Connection を設定します。 [カレンダーと連絡先のインテグレーションに対して Unity Connection を設定する](#) を参照してください。
4. (パーソナル着信転送ルールを有効にする場合のみ) ユーザーまたはテンプレートが、パーソナル着信転送ルール機能を使用できるサービスクラスに割り当てられていることを確認します。
5. カレンダーと連絡先のインテグレーションに対して Unity Connection ユーザーを設定します。 [カレンダーと連絡先のインテグレーションに対して Unity Connection を設定する](#) を参照してください。
6. カレンダーのインテグレーションをテストします。 [Exchange または Office 365 サーバーとのカレンダーのインテグレーションをテストする](#) を参照してください。

## カレンダーと連絡先のインテグレーションに対して Office 365、Exchange 2019、Exchange 2016、Exchange 2013 を設定する

以下のタスクを実行して、Exchange 2019、Exchange 2016、Exchange 2013、Exchange 2010 をカレンダーと連絡先のインテグレーションに対して設定します。

1. [クライアントアクセスのロール (Client Access role)] は、Exchange 2019、Exchange 2016、Exchange 2013、および Exchange 2010 サーバーで有効になっていることを確認します。
2. [カレンダーと連絡先のインテグレーションのための Exchange 2019、Exchange 2016、Exchange 2013、Exchange 2010 を設定する](#) を実行します。
3. (オプション) Exchange サーバーへの安全なアクセスのために SSL を使用している場合は、[Exchange 2013、Exchange 2010 へのセキュリティ保護されたアクセスを設定する](#) の項で説明されているステップに従います。



- (注) Exchange サーバー上でセキュアな IMAP を SSL で設定し、IMAP と IIS の両方の証明書を有効にした場合、[カレンダーと連絡先のインテグレーションのための Exchange 2019、Exchange 2016、Exchange 2013、Exchange 2010 を設定する](#) の項の手順に従います。

### カレンダーと連絡先のインテグレーションのための Exchange 2019、Exchange 2016、Exchange 2013、Exchange 2010 を設定する

- ステップ 1 Exchange サーバーで、[インターネットサービス (IIS) マネージャ (Internet Services (IIS) Manager)] アプリケーションを開きます。
- ステップ 2 インターネットインフォメーションサービス (Internet Information Services) > <Exchange server name> > ウェブサイト (Web Sites) > 既定のウェブサイト (Default Web Site) に移動します。
- ステップ 3 [Exchange] を右クリックして、[プロパティ (Properties)] を選択します。

- ステップ 4 [Exchange プロパティ (Exchange Properties)] ダイアログボックスで、[仮想ディレクトリ (Virtual Directory)] タブを選択します。
- ステップ 5 [このリソースのコンテンツの参照元 (Content For This Resource Should Come From)] メニューから、[このコンピュータ上にあるディレクトリ (A Directory Located On This Computer)] を選択します。
- ステップ 6 ローカルパスが \\.\BackOfficeStorage\

ステップ 7 [読み取り (Read)] チェックボックスを選択します。

ステップ 8 [ディレクトリセキュリティ (Directory Security)] タブを選択します。

ステップ 9 [認証とアクセス制御 (Authentication and Access Control)] メニューで [編集 (Edit)] を選択します。

ステップ 10 [認証方法 (Authentication Methods)] ダイアログボックスの [認証済みアクセス (Authenticated Access)] セクションで、次のオプションのチェックボックスを選択します。

  - 統合 Windows 認証 (NTLM と呼ばれることもあります)
  - 基本認証
  - Windows ドメインサーバーのダイジェスト認証

ステップ 11 [OK] を選択します。

ステップ 12 [Exchange のプロパティ (Exchange Properties)] ダイアログボックスで [OK] を選択します。

ステップ 13 インターネットインフォメーションサービス (Internet Information Services) >> [ウェブサービス拡張 (Web Service Extensions)] > に移動します。

ステップ 14 右側のペインから、[WebDav] を選択し、ステータスが [許可 (Allowed)] になっていることを確認します。ステータスが [許可 (Allowed)] でない場合は、[許可 (Allow)] をクリックします。

ステップ 15 Exchange サーバーで、[Exchange 管理コンソール (Exchange Management Console)] を開きます。

ステップ 16 サーバー設定 (Server Configuration) > メールボックス (Mailbox) に移動します。

ステップ 17 カレンダーと連絡先のインテグレーションのために設定する各メールボックスに対して、次の作業を行います。

  - a) 上部中央のペインで、メールボックス名を選択します。
  - b) 下部中央のペインで、[WebDav] タブを選択します。
  - c) [Exchange (デフォルトのウェブサイト) (Exchange (Default Web Site))] を右クリックし、[プロパティ (Properties)] を選択します。
  - d) [Exchange (デフォルトのウェブサイト) (Exchange (Default Web Site))] のプロパティダイアログボックスで、[認証 (Authentication)] タブを選択します。
  - e) [1 つまたは複数の標準認証方法を使用する (Use One or More Standard Authentication Methods)] を選択して、ステップ 10 で設定したのと同じ認証方法を選択します。

ステップ 18 OK をクリックします。

ステップ 19 [Exchange Management Shell] を開きます。

ステップ 20 [Exchange Management Shell] で次のコマンドを入力します。

```
iisbreset /noforce
```

ステップ 21 **Enter** を押します。

## Exchange 2013、Exchange 2010 へのセキュリティ保護されたアクセスを設定する

ステップ 1 Exchange サーバーで、**[Exchange Management Shell]** アプリケーションを開きます。

ステップ 2 次のコマンドを入力します。<Exchange server> は Exchange サーバーの IP アドレスまたは完全修飾ドメイン名で、<friendly name> は Exchange サーバー用に選択したわかりやすい名前です。

• **new-exchangecertificate -generaterequest -domainname <Exchange server> -friendlyname <friendly name>-path c:\csr.txt**

**注意** Exchange サーバーのドメイン名は、IP アドレスまたは完全修飾ドメイン名（推奨）である必要があります。これにより、Unity Connection サーバーは Exchange サーバーを正常に ping できます。そうしないと、カレンダーと連絡先のインテグレーションが正しく機能しない場合があります。

ステップ 3 **Enter** を押します。

Csr.txt という名前の証明書署名リクエスト（CSR）ファイルがルートディレクトリに作成されます。

ステップ 4 CSR ファイルを認証局（CA）に送信すると、新しい証明書が生成され、返送されます。

（注）CA パブリックルート証明書またはパブリックルート証明書チェーンのコピーが必要です。この証明書は、Unity Connection を設定して Exchange サーバーを信頼するために必要です。

ステップ 5 証明書をインポートする Exchange サーバーがアクセスできる場所に新しい証明書を保存します。

ステップ 6 Exchange サーバーで、**[Exchange Management Shell]** アプリケーションを開きます。

ステップ 7 次のコマンドを入力します。<path> は、CA から受け取った新しい証明書のフルパスです。

**import-exchangecertificate -path <path>**

ステップ 8 **Enter** を押します。

ステップ 9 次のコマンドを入力します。

**dir cert:\localmachine\my | fl**

ステップ 10 **Enter** を押します。

ステップ 11 [thumbprint] プロパティをハイライトし、**Ctrl-C** を押してクリップボードにコピーします。

ステップ 12 Exchange サーバーからメールとカレンダーデータの両方にアクセスするために IMAP を使用するように Unity Connection が設定されている場合、次のコマンドを入力します。<thumbprint> は、[ステップ 11](#) でコピーした [thumbprint] です

**enable-exchangecertificate -thumbprint <thumbprint> -services "IIS,IMAP"**

Unity Connection が IMAP を使用するように設定されていないが、Exchange サーバーからのカレンダーデータを使用するように設定されている場合、次のコマンドを入力します。<thumbprint> は、[ステップ 11](#) でコピーした [thumbprint] です。

**enable-exchangecertificate -thumbprint <thumbprint> -services "IIS"**

- ステップ 13 **Enter** を押します。
- ステップ 14 データを平文として送信する場合は、この手順の残りのステップをとばして、[カレンダーと連絡先のインテグレーションに対して Unity Connection を設定する](#) に進みます。または、**[IIS マネージャ (IIS Manager)]** アプリケーションを開きます。
- ステップ 15 **IIS** > **サーバー名 (server name)** > > **ウェブサイト (Web Sites)** > **デフォルトのウェブサイト (Default Web Site)** に移動します。
- ステップ 16 **[デフォルトのウェブサイト (Default Web Site)]** を右クリックし、**[プロパティ (Properties)]** を選択します。
- ステップ 17 **[プロパティ (Properties)]** ダイアログボックスで、**[ディレクトリセキュリティ (Directory Security)]** タブを選択します。
- ステップ 18 **[セキュア通信 (Secure Communications)]** メニューで、**[編集 (Edit)]** を選択します。
- ステップ 19 **[セキュアなチャネルが必要 (Require Secure Channel)]** チェックボックスをオンにします。
- ステップ 20 **[OK]** を選択します。
- ステップ 21 **[プロパティ (Properties)]** ダイアログボックスで **[OK]** を選択します。

## カレンダーと連絡先のインテグレーションに対して **Unity Connection** を設定する

- ステップ 1 Cisco Unity Connection 管理で、**[ユニファイドメッセージング (Unified Messaging)]** を開き、**[ユニファイドメッセージング サービス (Unified Messaging Services)]** を選択します。既存のユニファイドメッセージング サービスを変更するか、**[新規追加 (Add New)]** を使用して新しいサービスを作成できます。
- ステップ 2 **[新しいユニファイドメッセージングサービス (New Unified Messaging Service)]** ページで、**[タイプ (Type)]** のリストから **[Exchange/BPOS-D]** を選択し、**[有効にする (Enabled)]** チェックボックスをオンにして、ユニファイドメッセージング サービスを有効にします。
- ステップ 3 必須フィールドに詳細を入力し、**[保存 (Save)]** を選択します。（各フィールドの詳細については、**ヘルプ (Help) > このページ (This Page)** を参照してください）。

(注) **[サービス機能 (Service Capabilities)]** メニューで、**[Exchange のカレンダーおよび連絡先にアクセスする (Access Exchange Calendars and Contacts)]** チェックボックスが必ずチェックされていることを確認します。

- ステップ 4 **[テスト (Test)]** を選択すると、設定が正常に検証されたかどうかを示すメッセージが表示されます。検証が失敗した場合、上記の設定手順に従って、適切に導入されていることを確認します。

## カレンダーと連絡先のインテグレーションに対して **Unity Connection** を設定する

カレンダーと連絡先のインテグレーションに対して Unity Connection サーバーを設定したら、適切なユーザーを設定できます。



(注) ユニファイドメッセージング用に設定された各 Unity Connection ユーザーのユーザーアカウントが Active Directory に存在している必要があります。また、Exchange 2019、Exchange 2016、Exchange 2013、Exchange 2010 の各ユーザーアカウントに対応するメールボックスがあり、これらは Unity Connection サーバーと通信する必要があります。

- ステップ 1** Cisco Unity Connection Administration で、[ユーザー (Users)] を展開し、[ユーザー (Users)] を選択します。適切なユーザーを選択します。
- ステップ 2** [ユーザーの基本設定の編集 (Edit User Basics)] ページで、[編集 (Edit)] メニューで [ユニファイドメッセージングアカウント (Unified Messaging Accounts)] を選択します。
- ステップ 3** [ユニファイドメッセージアカウント (Unified Messaging Accounts)] ページで、[新規追加 (Add New)] を選択します。
- (注) ユニファイドメッセージングアカウントを作成する前に、ユニファイドメッセージングサービスが設定されていることを確認します。
- ステップ 4** [新しいユニファイドメッセージングアカウント (新しいユニファイドメッセージングアカウント)] ページで、次の詳細を選択します。
- [ユニファイドメッセージングサービス (Unified Messaging Service)] ドロップダウンで、[カレンダーと連絡先のインテグレーションに対して Unity Connection を設定する](#) の項で作成したユニファイドメッセージングサービスを選択します。
  - [アカウント情報 (Account Information)] メニューから、[この電子メールアドレスを使用 (Use This Email Address)] フィールドに、ユーザーに対する Exchange メールアドレスを Active Directory に入力します。
- ステップ 5** [サービス機能 (Service Capabilities)] メニューで、[Exchange の予定表および連絡先にアクセス (Access Exchange Calendar and Contacts)] のチェックボックスをオンにして、[保存 (Save)] を選択します。
- ステップ 6** ユーザーのカレンダーと連絡先の設定を確認し、[テスト (Test)] を選択します。[タスクの実行結果 (Task Execution Results)] ウィンドウにテスト結果が表示されます。テストの一部でも失敗した場合は、Exchange 2019、Exchange 2016、Exchange 2013、または Exchange 2010、Active Directory、Unity Connection、およびユーザーの設定を確認します。
- ステップ 7** 残りのすべてのユーザーに対して [ステップ 2](#) から [ステップ 6](#) を繰り返します。

## Exchange または Office 365 サーバーとのカレンダーのインテグレーションをテストする

- ステップ 1** Outlook にサインインします。
- ステップ 2** [移動 (Go)] メニューで、[カレンダー (Calendar)] を選択します。
- ステップ 3** [ファイル (File)] メニューで、[新規 \(New\)](#) > [ミーティングリクエスト \(Meeting Request\)](#) を選択します。

**ステップ 4** 必須フィールドに値を入力して新しいタイムのミーティングをスケジュールし、Unity Connection のアカウントを持つユーザーを招待します。[送信] を選択します。

**ステップ 5** Outlook ミーティングに招待したユーザーの Unity Connection メールボックスにログインします。

- ユーザーアカウントが音声認識アクセスに設定されている場合は、「Play Meetings」と言います。
- ユーザーアカウントが音声アクセスに構成されていない場合、6 を押して、プロンプトに従ってミーティングを一覧表示します。

Unity Connection は、Exchange 2019、2016、2013、2010 ミーティングに関する情報を読み取ります。

## カレンダーと連絡先のインテグレーションにCiscoUnifiedMeetingPlace または Cisco Unified MeetingPlace Express を設定する

1. システム要件を見直し、Unity および Unity Connection サーバーのすべての要件が満たされていることを確認してください。 [https://www.cisco.com/c/en/us/td/docs/voice\\_ip\\_comm/connection/14/requirements/b\\_14cucsysreqs.html](https://www.cisco.com/c/en/us/td/docs/voice_ip_comm/connection/14/requirements/b_14cucsysreqs.html) にある『Cisco Unity Connection のシステム要件、リリース 14.x』の「ミーティングのカレンダー情報にアクセスするための要件」の項を参照してください。
2. Cisco Unified MeetingPlace または Cisco Unified MeetingPlace Express を設定します。次の項を参照してください。
  - [カレンダーの統合に向けて Cisco Unified MeetingPlace を設定する](#)
  - [カレンダーの統合に向けて Cisco Unified MeetingPlace Express を設定する](#)
3. Unity Connection を設定します。 [カレンダーインテグレーションに対する Unity Connection を設定する](#) の項を参照してください。
4. ステップ 2. で HTTPS を使用するように Cisco Unified MeetingPlace を設定した場合、ステップ 3. でユニファイドメッセージング サービスを設定して MeetingPlace サーバーの証明書を検証するようにした場合：Unity Connection サーバーの Cisco Unified Communications Operating System で、tomcat-trust と Unity Connection-trust ロケーションの両方の MeetingPlace サーバー用の SSL 証明書を発行した認証局からの証明書をアップロードします。SSL による手順の詳細は、 [https://www.cisco.com/c/en/us/td/docs/voice\\_ip\\_comm/connection/14/security/guide/b\\_14cucsecx.html](https://www.cisco.com/c/en/us/td/docs/voice_ip_comm/connection/14/security/guide/b_14cucsecx.html) にある『Cisco Unity Connection セキュリティガイド、リリース 14.x』の「SSL を使ってクライアント/サーバー接続を保護する」の章を参照してください。
5. Unity Connection ユーザーを設定します。 [カレンダーインテグレーションに対する Unity Connection ユーザーを設定する](#) の項を参照してください。
6. カレンダーのインテグレーションをテストします。詳細については、 [Cisco Unified MeetingPlace または Cisco Unified MeetingPlace Express でカレンダー統合をテストする](#) の項を参照してください。

7. ユーザーにミーティングの表示、参加、スケジュールの方法を教えるには、  
[https://www.cisco.com/c/en/us/td/docs/voice\\_ip\\_comm/connection/14/user/guide/phone/b\\_14cucugphone.html](https://www.cisco.com/c/en/us/td/docs/voice_ip_comm/connection/14/user/guide/phone/b_14cucugphone.html) にある『Cisco Unity Connection 電話インターフェイス ユーザー ガイド (リリース 14.x)』の「電話メニューとボイスコマンド」の章を参照してください。

## カレンダーの統合に向けて Cisco Unified MeetingPlace を設定する

- ステップ 1 Cisco Unified MeetingPlace アプリケーションサーバーに管理者としてログインします。
- ステップ 2 ユーザー設定 (User Configuration) > ユーザープロファイル (User Profiles) の順に選択します。
- ステップ 3 [新規追加 (Add New)] を選択します。
- ステップ 4 必須フィールドに次の値を入力して、特別なサービスアカウントを作成します。

名	このフィールドは空のままにします。
Last Name	[Cisco Unity Connection] を入力します。
ユーザー ID	cucsvc または他のユーザー ID を入力します。
ユーザパスワード	該当するパスワードを入力します。
プロファイル番号	適切なプロファイル番号を入力します。
プロファイルパスワード	適切なプロファイルパスワードを入力します。
ユーザーのタイプ	[システム管理者 (System Administrator)] を選択します。

(注) [ユーザー ID (User ID)]、[ユーザーパスワード (User Password)]、[プロファイル番号 (Profile Number)] および [プロファイルパスワード (Profile Password)] のフィールドに入力する値は、[カレンダーインテグレーションに対する Unity Connection を設定する](#)の項のページ 4~8 で使用されます。

- ステップ 5 保存を選択します。
- ステップ 6 Cisco Unified MeetingPlace からサインアウトします。
- ステップ 7 ウェブブラウザの [アドレス (Address)] フィールドに、SSL が有効でない場合、次の URL を入力します (<server> は Cisco Unified MeetingPlace サーバーの IP アドレスまたはホスト名です)。

**http://<server>/webservices/services/meetingservice?wsdl**

SSL が有効な場合、次の URL を入力します。

**https://<server>/webservices/services/meetingservice?wsdl**

- ステップ 8 Enter を押します。

- ステップ 9** サインインが求められたら、権限のあるサービスアカウントのユーザー ID とパスワードを入力します。  
Cisco Unified MeetingPlace ウェブサービス記述言語 (WSDL) ダウンロードページが、タイトル「XFire Services」で表示されます。

## カレンダーの統合に向けて **Cisco Unified MeetingPlace Express** を設定する

- ステップ 1** Cisco Unified MeetingPlace Express にログインして、[**管理者 (Administration)**] を選択します。
- ステップ 2** ユーザー設定 (**User Configuration**) > ユーザプロフィールの管理 (**User Profile Management**) を選択します。
- ステップ 3** [**新規追加 (Add New)**] を選択します。
- ステップ 4** 必須フィールドに次の値を入力して、API ユーザーを作成します。

<b>First Name</b>	このフィールドは空のままにします。
<b>Last Name</b>	[ <b>Cisco Unity Connection</b> ] を入力します。
<b>ユーザー ID</b>	<b>cucsvc</b> または他のユーザー ID を入力します。
<b>ユーザパスワード</b>	該当するパスワードを入力します。
<b>プロフィール番号</b>	適切なプロフィール番号を入力します。
<b>ユーザーのタイプ</b>	[ <b>API ユーザー (API User)</b> ] を選択します。

(注) [ユーザー ID (User ID)]、[ユーザーパスワード (User Password)] および [プロフィール番号 (Profile Number)] のフィールドに入力する値は、[カレンダーインテグレーションに対する Unity Connection ユーザーを設定する](#)の項のページ 4~9 で使用されます。

- ステップ 5** 保存を選択します。
- ステップ 6** Cisco Unified MeetingPlace Express からサインアウトします。  
Cisco Unified MeetingPlace Express からサインアウトしない場合、[Cisco Unified MeetingPlace](#) または [Cisco Unified MeetingPlace Express](#) で[カレンダー統合をテストする](#)のテストに失敗します。
- ステップ 7** ウェブブラウザの [アドレス (Address)] フィールドで、以下を行います。
- SSL が有効になっていない場合は、次の URL を入力してください (<server> は Cisco Unified MeetingPlace Express サーバーの IP アドレスまたはホスト名です)。  
**http://<server>.com/webservices/services/meetingservice?wsdl**
  - SSL が有効な場合、次の URL を入力します。  
**https://<server>.com/webservices/services/meetingservice?wsdl**

ステップ 8 **Enter** を押します。

ステップ 9 サインインが求められたら、API ユーザーのユーザー ID とパスワードを入力します。

Cisco Unified MeetingPlace Express WSDL ダウンロードページが、「XFire Services」というタイトルで表示されます。

---

## カレンダーインテグレーションに対する Unity Connection を設定する

---

ステップ 1 Cisco Unity Connection 管理で、[ユニファイドメッセージング (Unified Messaging)] を開き、[ユニファイドメッセージング サービス (Unified Messaging Services)] を選択します。

ステップ 2 既存のユニファイドメッセージング サービスを変更するか、[新規追加 (Add New)] を選択して新しいサービスを作成します。

ステップ 3 [新しいユニファイドメッセージングサービス (New Unified Messaging Service)] ページで、[タイプ (Type)] リストから [MeetingPlace 8.x] を選択し、[有効 (Enabled)] にチェックを入れ、Cisco Unified MeetingPlace サーバーとのユニファイドメッセージングを有効にします。

ステップ 4 必須フィールドに値を入力し、[保存 (Save)] を選択します。(各フィールドの詳細については、ヘルプ (Help) > このページ (This Page) を参照してください)。

(注) [サービス機能 (Service Capabilities)] メニューで、[ユーザーの MeetingPlace 会議 (User MeetingPlace Meetings)] と [MeetingPlace スケジュール設定および参加設定 (MeetingPlace Scheduling and Joining)] のチェックボックスが選択されていることを確認します。

ステップ 5 インテグレーションを Cisco Unified MeetingPlace で確認するには、[テスト (Test)] を選択します。[タスクの実行結果 (Task Execution Results)] ウィンドウにテスト結果が表示されます。テストの一部でも失敗した場合は、Cisco Unified MeetingPlace および Unity Connection の設定を確認します。

---

## カレンダーインテグレーションに対する Unity Connection ユーザーを設定する



**注意** Cisco Unified MeetingPlace では、設定している Unity Connection ユーザーごとにエンドユーザーが必要です。

ステップ 1 Cisco Unity Connection Administration で、[ユーザー (Users)] を展開し、[ユーザー (Users)] を選択します。適切なユーザーを選択します。

ステップ 2 [ユーザーの基本設定の編集 (Edit User Basics)] ページで、[編集 (Edit)] メニューで [ユニファイドメッセージング アカウント (Unified Messaging Accounts)] を選択します。

ステップ 3 [ユニファイドメッセージアカウント (Unified Messaging Accounts)] ページで、[新規追加 (Add New)] を選択します。[新しいユニファイドメッセージングアカウント (New Unified Messaging Account)] ページが表示されます。

**ステップ 4** [新しいユニファイドメッセージングアカウント (New Unified Messaging Account) ] ページで、[ユニファイドメッセージング サービス (Unified Messaging Service) ] を Cisco Unified MeetingPlace で選択します。必須フィールドに値を入力し、[保存 (Save) ] を選択します。（各フィールドの詳細については、ヘルプ (Help) >このページ (This Page) を参照してください）。

(注) [サービス機能 (Service Capabilities) ] メニューで、[MeetingPlace スケジュール設定および参加設定 (MeetingPlace Scheduling and Joining) ] と [プライマリ会議サービス (Primary Meeting Service) ] のチェックボックスが選択されていることを確認します。

**ステップ 5** ユーザーのカレンダー設定を確認するには、[テスト (Test) ] を選択します。テスト結果を示す [タスクの実行結果 (Task Execution Results) ] ウィンドウが表示されます。テストに失敗した部分がある場合は、Cisco Unified MeetingPlace、Unity Connection とユーザーの設定を確認してください。

**ステップ 6** 残りのすべてのユーザーに対して **ステップ 2** から **ステップ 5** を繰り返します。

## Cisco Unified MeetingPlace または Cisco Unified MeetingPlace Express でカレンダー統合をテストする

**ステップ 1** エンドユーザーとして Cisco Unified MeetingPlace にサインインします。

**ステップ 2** [スケジュール (Schedule) ] を選択します。

**ステップ 3** 必須フィールドに値を入力して新しいタイムのミーティングをスケジュールし、Unity Connection のアカウントを持つユーザーを招待します。

**ステップ 4** **ステップ 3** で招待したユーザーの Unity Connection メールボックスにサインインします。

**ステップ 5** ユーザーアカウントが音声認識アクセスに設定されている場合は、「Play Meetings」と言います。

ユーザーアカウントが音声アクセスに構成されていない場合、**6** を押して、プロンプトに従ってミーティングを一覧表示します。

**ステップ 6** スケジュールした Cisco Unified MeetingPlace ミーティングのアナウンスが聞こえたら、「Join」と言うか、または電話のキーパッドのキーを押してミーティングに参加します。

■ Cisco Unified MeetingPlace または Cisco Unified MeetingPlace Express でカレンダー統合をテストする

## 翻訳について

このドキュメントは、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。